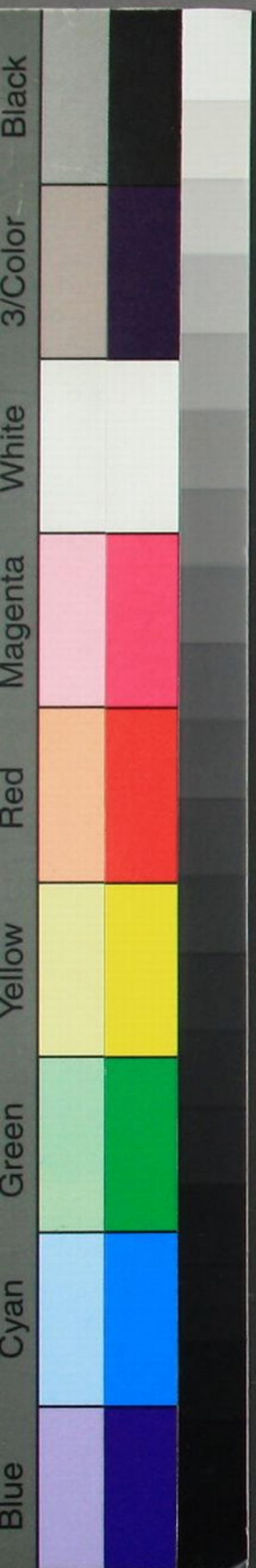
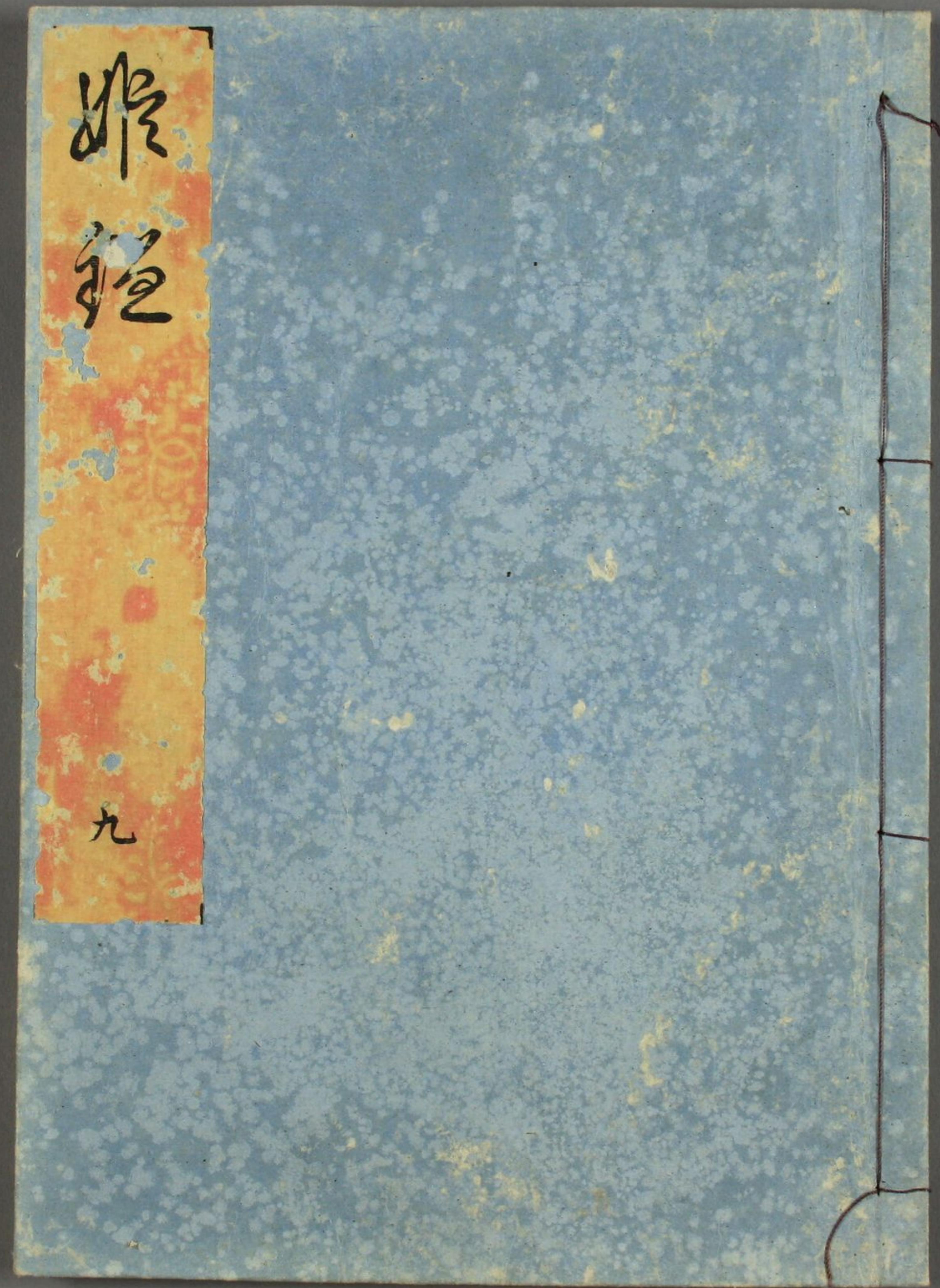


1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80



比賣監紀行卷第十四

目錄

橘逸勢女 文德寶集

福依賣

同上

請僧疏女

金葉集

供養貞女

今昔物語

南瓶紫女

發心集

二家院讚故

永諭詰

兼女徵妙

東籬

平親清女

後拾遺集

坂東僧女

砂石集

見鴻芳女

完栗芳女



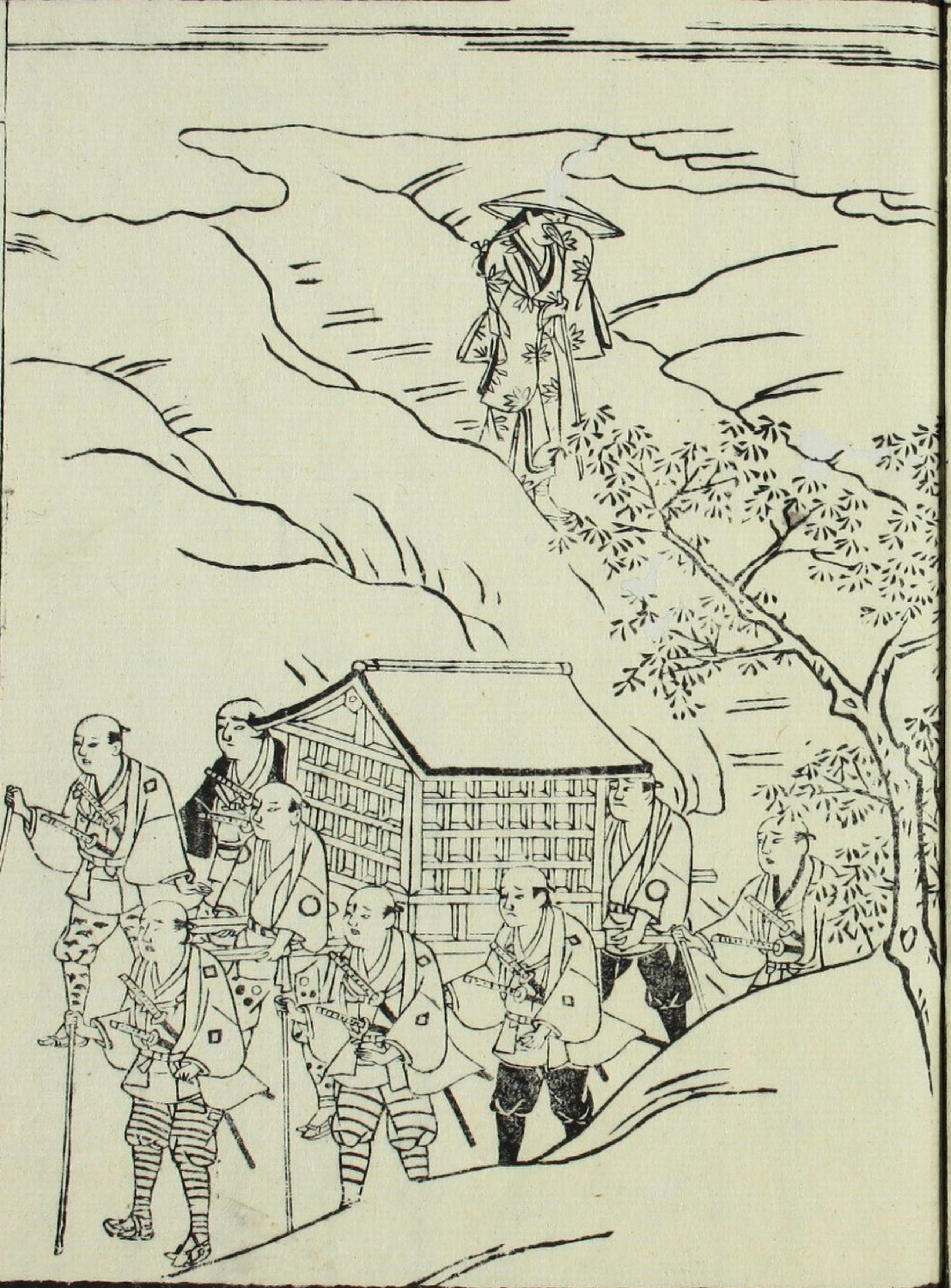
比賣盤紀行卷之四

紀行第ニ此中へましむすより

じうに明天皇の御せよ。但馬守ち逃勢とひきりはまが時  
よくもあらへんをとどくありて。伊豆のふ  
みうさくねどもくわゆるをうとおし者もあらへ。半  
かいつくわくわくわくわくは人のもれりししまなから。又も  
もくわくわくわくわくは人のもれりししまなから。又も  
もくわくわくわくわくは人のもれりししまなから。又も  
もくわくわくわくわくは人のもれりししまなから。又も  
もくわくわくわくわくは人のもれりししまなから。又も



なりて人よがれど十とのる事まへてさづるよもつま  
とあひくおまへらへりてのむもあらざやうのまん  
若りてはまやぬけをあすかくともとくへえとゆ  
そよびておひるみくふくわゆるべの誠がざぶ  
がゆがりそのひて然あバとくぬくわゆいあがゆく人のあ  
みくさんあがわゆるのあくせよのアシ人もあり  
一物をもひもとよかどくとくとくとくとくとく  
うくまうりゆめじばとくとく  
しりき度のよま福依書とづりやこ民れしとあつら  
ゆきゆくものとてたゞしきち一人もやまひよゆた



まごとくあらひのをうす。痛経事つひよふ  
をぞれども年よりわざくらむとあらむとあ  
らわさればよろこびゆくもあへり。又年八十  
といえれどもくちに痛経事くそりとあらむとたゞけ居  
りかくす。二年よきよびゆくもあらひのうけり。  
てよしといふがりうづくものあやでみを仰せらるよ  
まうらはりとあらわして居とよむたほ人の親よにえ  
きよくよがりあらわくとしてありふとぞれとよ  
おおの里れんへとよびゆくひがりてづゆよ上養へと  
きよがとうとくねこ役とおうて門閥とあらわせうひくと  
にあらわのあらわれよのまうくいのをくわらく倒  
ゆきよだるよづくともよもよくおきよあらひ敵せびへ行と  
もんとく父母をゆくをすばりし。若あらびよあらひ称せ  
よまよふればよのた全くぬかり。それなゑハモクのとこ  
もくわてぬくとたれどやかへとおびよづくふとおも  
もくとくよづくひづくとおもかへおもあらわくわれど  
今月よ、經典よくとくとくお理とくとくのうちゆよ考覧た  
らざくとくのじよかくとくとくおもじよしよしよしよしよしよしよ

レバナリナオウサカのあとアリ。日アリムモバーノの後  
アキドテ後經のアリ。アリ。後アリ。アリ。のほ  
アミヤシヒトモアリ。今モアリ。秋のモアリ。けぬどもアリ  
アリ。モアリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。  
アリ。モアリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。  
アリ。モアリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。  
アリ。モアリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。  
アリ。モアリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

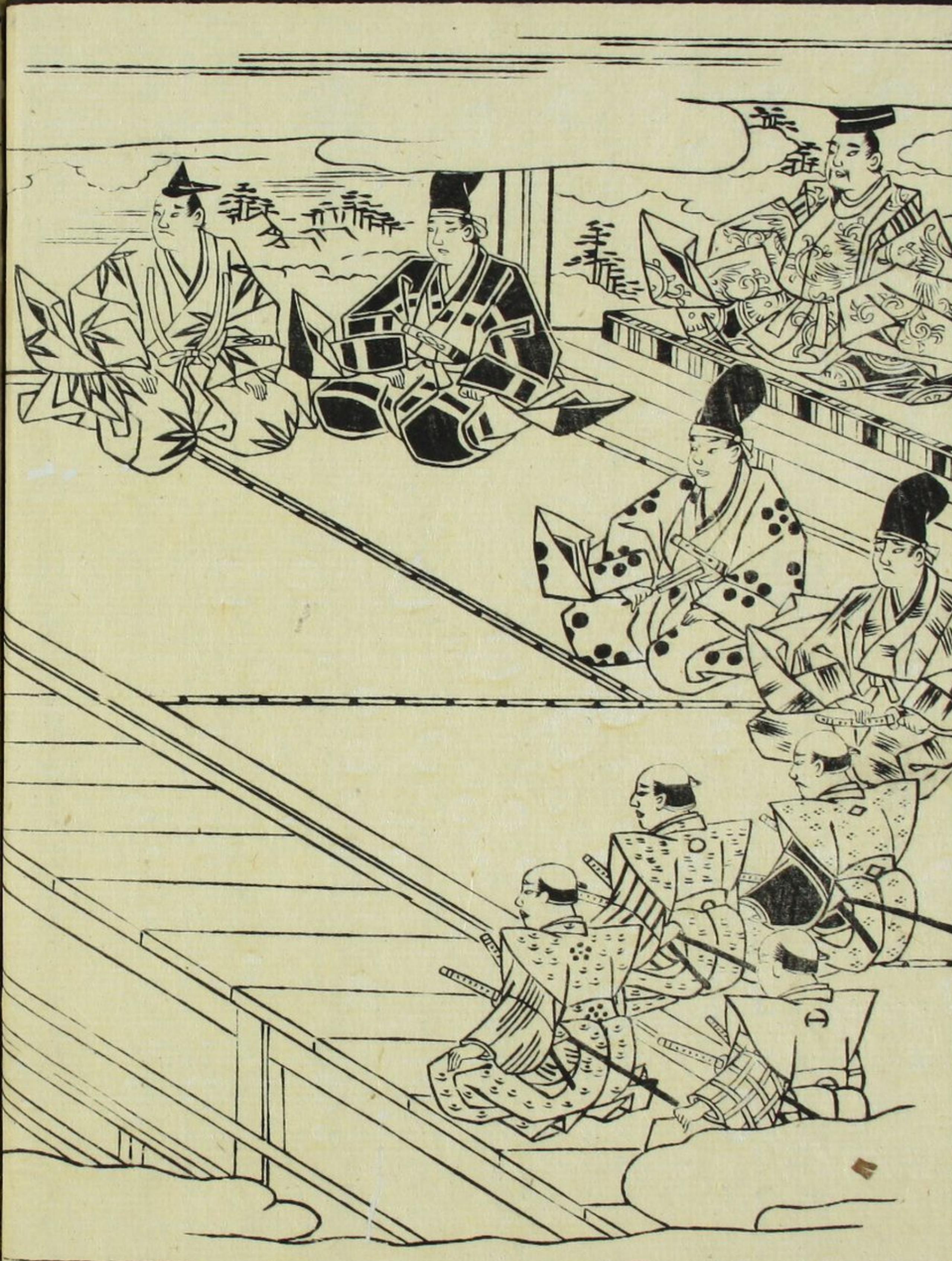
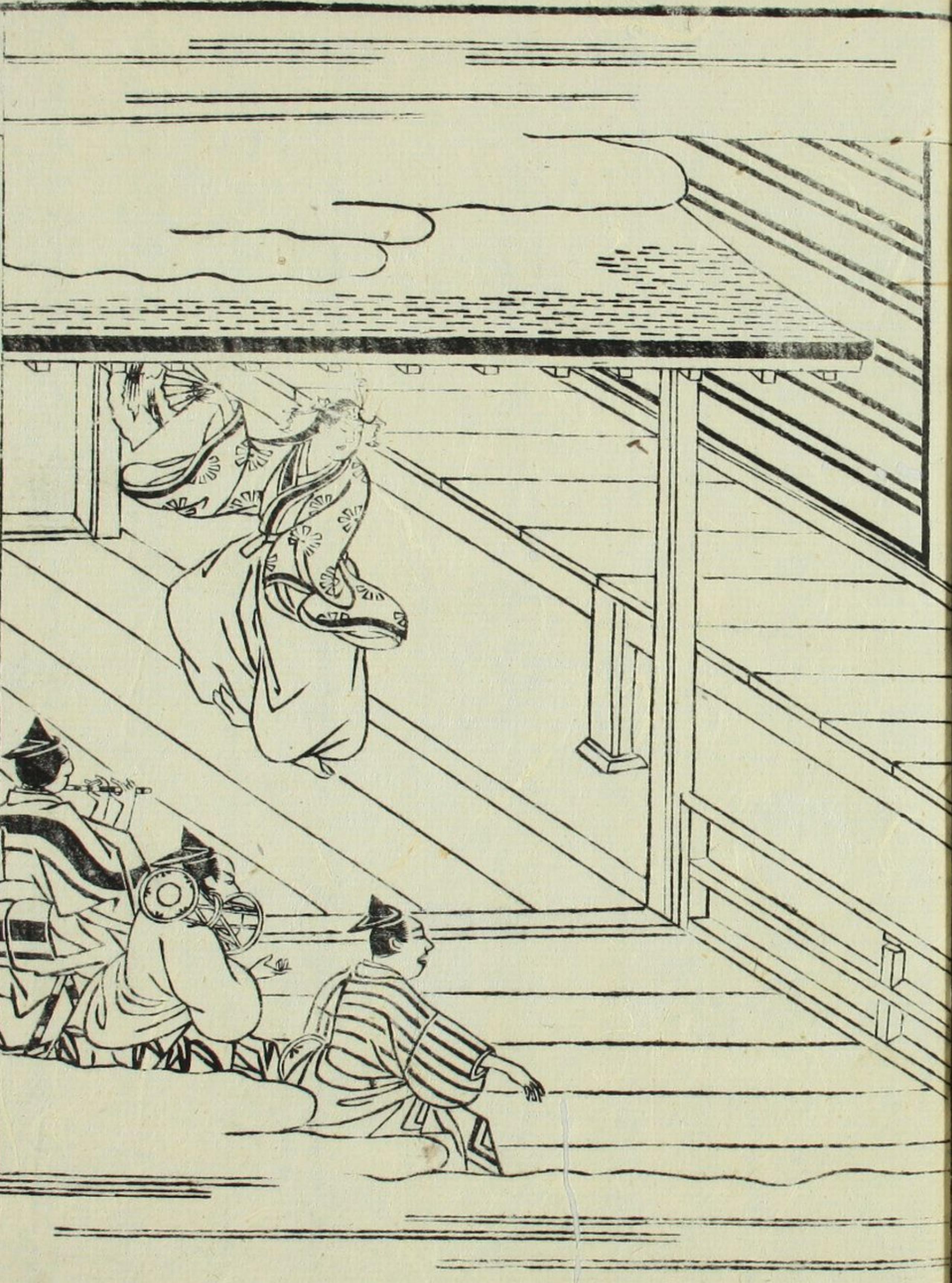
モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。  
モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。  
モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。  
モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。  
モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。  
モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。  
モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。

アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。  
モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。  
モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。  
モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。  
モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。  
モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。

中、もあはれてすみけりぬ。がくわらへて、門田をもり  
からく。あゆきあひのまこと。あくはせのうとうとすい  
おとまほひとも。あく。あくまくまく  
のうりうけり。がくわらへて、まくらもて、まくらのまくら  
せえれば、かとまくらても、もろそへ、我のふとあひゆきけり。中、も  
年士一三十九、じよわきけり。がくわらへて、まくら  
のうりうけり。がくわらへて、まくらもて、もろそへ、我の  
きびくらと、いぢやかくらへて、まくら  
をくらく。がくわらへて、まくらもて、もろそへ、我の  
あづくらくらへて、まくらもて、まくらへて、まくら  
すよけ際、かりて、けいざれ沈よつり。とくとくのうりは  
あり。あらぬまのよしと、人をびりりと、じよかへたくら  
くらへて、だくらへて、まくらもて、まくらへて、まくら





程あれどもとくわく。茶は小まの事よ、もとれどりがれや  
ありもいも。かくとくびり。唐のたまれ諸もあら  
とくとくとく。うきり。やまと。寝波もあらじとぐく  
うりてうるすや。ちうぶがううりうひもあらじと  
ハ若さあるはくぬく。うりと感をよしもんにうきとあら

やうり  
激めとひそひしめへ、あくそあくそとひだり。  
あくそあくそようちて、お家ぬ軍れ。  
おの比金朝、宮能負がりとあくそめの意とあくそ  
ひくそ。能負とて激めがひそひそとひだりやうじゆ

高木の御事は、いふて御承り候る所もあらず  
それが家事がその都合してどうかとおもひてゐる  
事のまことにあらう。左近の成る事の多くてらまくは  
かううみらひます。即ちて仰り。母子の事と申す  
事もあゆむひぬ事の事と申す事もあつた。まことに  
一人あがへば、さげの事もよきとひつゝがあると  
いれども、まことにあつてゐる事もあつてゐる事  
と申す事もあつてゐる事もあつてゐる事もあつて  
ありやうんと。さうかと申す事もあつてゐる事もあ  
せううけと。さういふ事もあつてゐる事もあつて  
奥川はと申すと。あの文と申すと。此二位の厄ども。その若を  
感ふと。あらねまひづり。そのうちからだりようのは  
うりやうじ。微妙がちくわ成はざつて。奥川と死  
ゆうと。微妙がちくわ成はざつて。まつりぐくち  
思ふと。あらねまひづり。古事記傳からと申すの  
うりやうじ。お福寺ゆきと申すと。うぢうぢれど。  
どうゆうと。あらねまひづり。お福寺ゆきと申すと。深波の里と申す  
村とあるあたり。尼ふくと申すと。おけとも。深波の里と申す

まごびくやうけよつたひだりとしげてあらり。波がさ白  
柏木となりてこゝを廻り。保たとらむじとびげり。  
されえぐふとモグシがためかくらどそのうちと。大  
き小あやまより。そくれがえともうちひだり。おうり  
むすすよぬとありけりとらもとなり。

李家はるひとみのゑづくらひ。旅とくよて人よき  
きく。又家はよくまつは。かくよそびとせらやせ  
がくくげとよ。服とくよみきくよ。

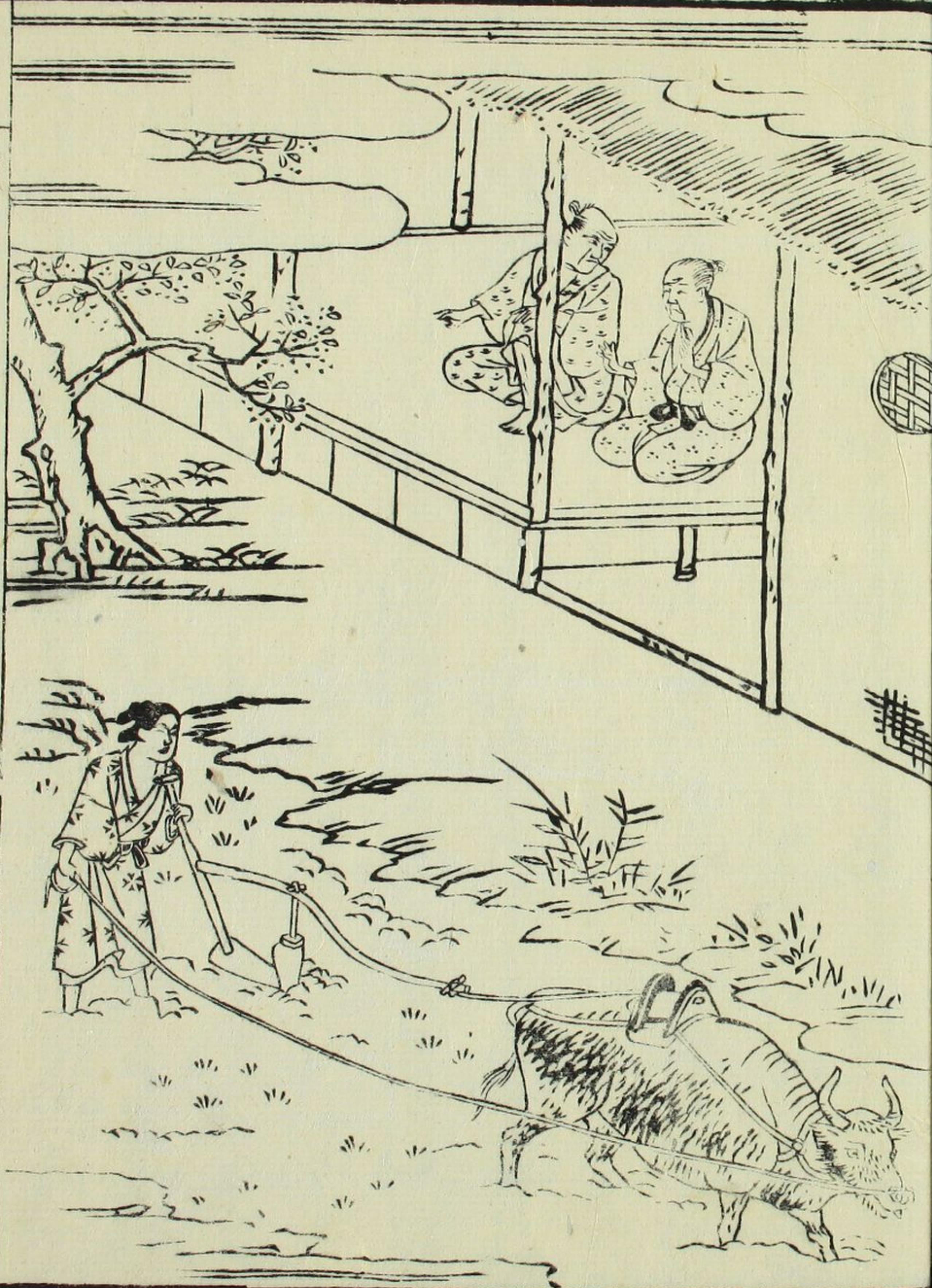
きよまもかくよ。かくようとくよもれにやうせば  
ひおハ後拾迷集よへき。すくはく者けのあとを  
あくよびとよゆくと。とくとくとくとくとくとくと  
人のいとがいとわよあくべび一首。なの世よどく人の  
つとじごくうのよその城をつらよともりれれまく  
くまくらや。

いつのはよあくよあくよもれがあがりと。とん。碧威  
そくひく歎よ。おみづきがくうりきり。年としりくのち。ねる  
ゆのゆのゆとくよやまひとくり。食くよかくよく年  
月あくよどいよみよみとくわづひ。まくよくと  
あくざくけとくわづひ。女一人とあくよくかくよくけと  
入めりて。とくよくづくとくよくとくよくとくよく。

おもむかしよのうす。まことにうやうやしくてじう  
あくまでうやうやしくいふ。がまくとまのうじとほり  
とくれどもひく。うきよのうじとくれどもひくして  
とくのうじとくのうじとくのうじとくのうじとくのうじ  
おもむかしよのうす。とくのうじとくのうじとくのうじ  
らきよのうじとくのうじとくのうじとくのうじとくのうじ  
とくのうじとくのうじとくのうじとくのうじとくのうじ  
ひ世のうじとくのうじとくのうじとくのうじとくのうじ  
うゆうう。おもむかしよのうす。たくわくうゆうう  
おもむかしよのうす。おもむかしよのうす。

文淵閣卷之二

卷之三



文淵閣卷之二

卷之三

ちうそくはあがのふりをひかわせたけん。せぬとてや  
アヤシゆきこもあらひ。まくわへじゆうりうるが  
えもかくはり人のあよだくまくとくうく。まくとくとく  
のうくまわきて。おののくとくをうけとくた。まくとく  
もうり。せはなのちやなに。がくとくやくとくとくわ  
のちやくぶくじ。じくとくとくとくとくとくとくとく  
うそじこととりまく。又ゆとくうりとくとくとく  
じくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
ちゆよあくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
かくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
うるひでやうるひで。我女とくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



あはれ親ともりのうひうの歌よりもゆうみこ處ふかにそ  
めへ考書えよらりあらぐくとまくべしとてみだらじと  
女をうどやせのあきと親のゆあうけすと情歌のひうと  
てよもれこみどりとみづくものごとけどくつすとよづ  
わやかやじよぞれりてもせと不のくもくびてまへ老くす  
らぬとおととよつと風じいふあくれてばきじくとあげ  
よろよどよととすむとくのくらへのくらへのくらへの  
人のあがみよのう女のあらまひとくとくとくとくと  
くくねくねくくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

比賣監紀行卷第亜

目録

姜詩妻

後漢書

趙嵩妻

後漢書

唐支人

後漢書

賀誠女

後漢書

陳芬婦

列女傳

俞新之妻

古今圖書集成

韓太初妻

周易

鄭義宗妻

唐書

文選卷八

歐陽希文書

五柳書

附  
湯  
導  
書

林氏之苦婦

懷果先生集

秋日かき

古文選紀行卷第五

紀行錄

はまくらの下シマクラノシタて男オトコ坊ボウよ暮ハヤシタりゆうとくに  
うわき明アキラカニ海シマれぬふの親おやぢなり

漢の姜詩は、その妻席氏もまた、よそへ参り、夫の死を嘆いてゐる。妻の嘆きの言葉は、

文金卷八

卷之三

たうのりのものもあらがひけふたりて、ほれのらぬ  
でとその身をもあらひては、まくまくけりとも。  
ひしもとさきとえども、まくはるか濃まよ。あらまう  
れやく老いたよへく、ながやとあらし文局どのみ  
てよひふくあらう。あらとむよのりで、あらうと  
やよひがみれ。禮泉おもやんからくたじめにあらうと  
きり文よゆくがけ泉おもやんとあらうきり。そのゆよすえ  
しらべぬぞのあよむとありて。な風のうらへとあらうん  
なうよじがみゆく。たはるふがれもと巻老まきろうのたまと名つて。  
聞のき号せうごうと告老ごうろうとあらたまをあらう。巻老まきろうとあらうと



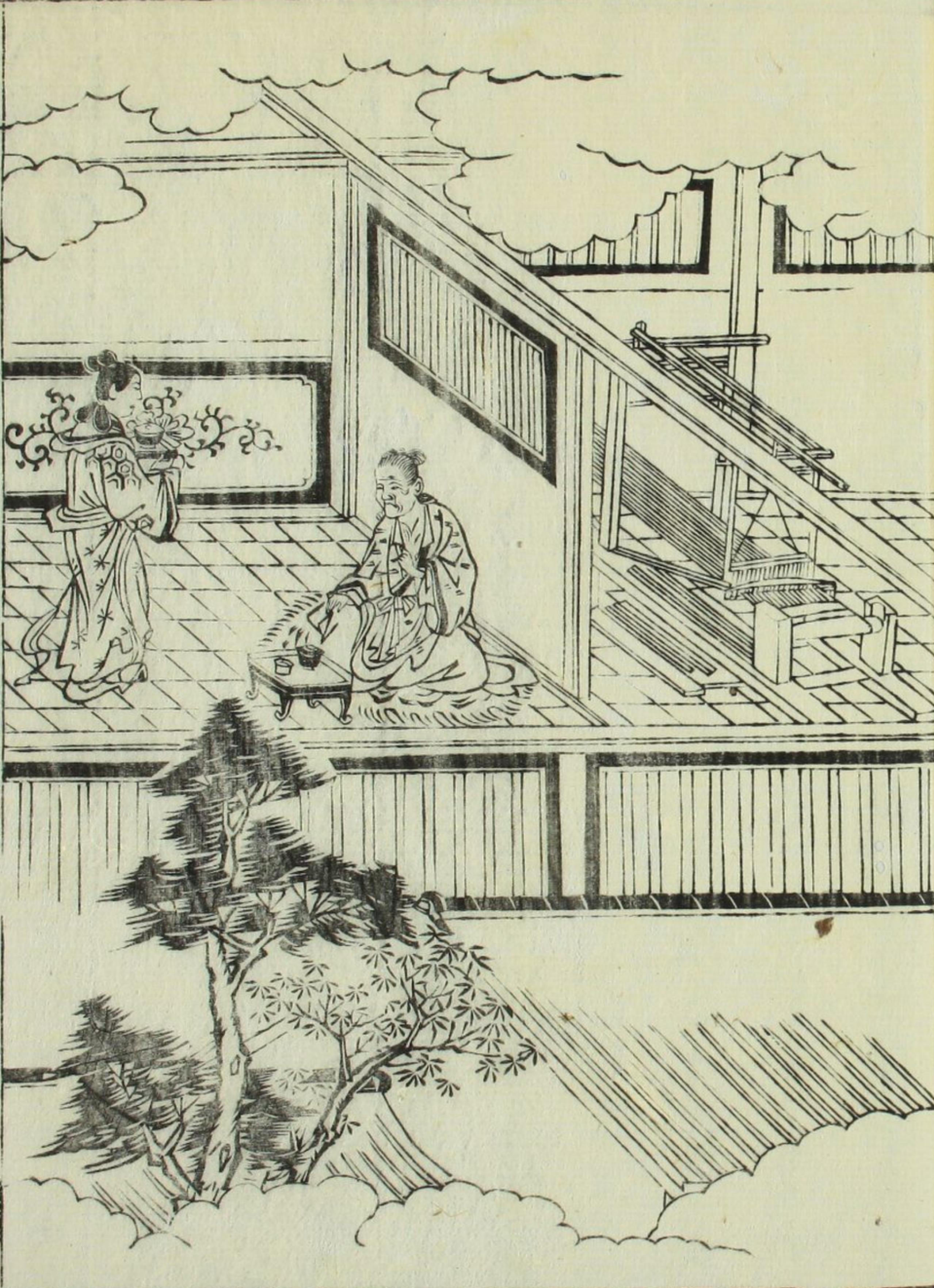
一をもあらぬまゝの者にの城主だ  
やうだ。さうしてから

晋の趙もひ妻の張氏がおとめなり趙はちかくとおどきまき  
けりおじ若すてづむよもとくらむじるのうきうちあ。されども  
あへておこたれどもやうめいひがくとくのとくとあゆひそ  
あゆみとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
やくながまわくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
うへておこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆゆゆ  
おこらしゆゆゆ  
おこらしゆ  
おこら









物の多くあ韓を幼とすありあへ劉氏のじよとよあり。大和  
アリえれよひく。づまく。ゆもかく。かうりきくが。  
せうりあかく。うて。被羽よううりとあうと。老うるぬのあり  
きと劉氏とすもく。ゆとねよ。母としとそもく。び換う  
らく。ゆあ。あよ。あき。ひとど。うり。いとそく  
めり。うら。あよ。あき。ひとど。うり。いとそく  
であく。うら。城あうけ。感無。あ。きのう。もよ。えく。う。



のふうすくよすうがふよそのとうすあらわし。血肉か  
もうちうくじだ。盧氏が自分をなげてしもまつるもとれり。  
さくさくの理よもじく。誠てむちう徳ひのまよ。がたため  
しはすく。さくらべ

唐の鄭義家が妻の盧氏。ふうくわくうりゆのよつて、  
鄭氏があとからて男娘よもじくのれどくせり。あくま  
強盗殺十人ふみぬきつとびとく。門づらやざりとく。だ  
りりんを。あくぞりてあおましむれもとよつて。あくまに  
亂家が無むりえよげと罵よわけうるく。盧氏やを  
とやうつとりふく。めのくわくゆのくわく。などとくわく  
らうきく。うめく。あくねどくりあく。あく戦とく。ひそる。  
盧氏がうらうておのぎく。はよあく。盧氏よみへて  
けともり。きれりうとく。のもとどわまと  
あくねだ義あくねがうり。たゞ隣里もとくのわゆ。財  
ざくたとく。きわむらやもとく。あやうたとく。そん  
やうしくのゆきあく。ばむりかくしてあく。そんねうとく。  
そき人のたまわく。も食の穀を。人のやどて。自ゆるが  
す。うらえ解かり。も歎うた。その余す。かよその穀  
取。うらえよく。ゆく。うりあり。とて。たまよじる  
ふ。その天孫とす。うづくもの歎き。ひよがつうだり。

天機とすもうづりく天孫とてつやうじりやうじば  
のをそびてそよぐじて人のみうちうすがそら天の  
さうしうおやり。よあくせようざくまく人若し。ぬと鳴鶴  
よあくせゆきかうめい。かよたまとまうりをかひぐ。ふた不  
まと死うるもうくわぬ。虚氏うきよひのどく。生死一大  
事なり。ほののまうりをかひぐ。わねむほくとまう  
福くじゆきまくわぬ。あくまうかまうりをかひぐ。あくびハ  
死とがまくとくまうげ。なうはまとまうげ。まうげ。すくが  
まうげ。

宋の歐陽希文がまへ廻らひせの内とよせどりのそれ

まとうりくぶまゆくり小母とぬくわうふ中よおがへーと  
りのくふくうもとひひんべ。廻氏うごめうと母とそくし。  
希文よもやまくがづくり。かうてとぬかひうて廻氏  
とくうてつかん。廻氏うとくうてのうひうて  
のうりて死ぬと人がけをあらもひうてのうと  
かあくうと廻節ぬの暮とんはうひうええの湯輝  
があハ法氏ナリ。よきがくうり。いぶが戦とあらふ  
けで湯輝ハその母とどりふとまくとすり。又ハやくわそれ  
かよまうく。法氏ハあらうかり又よつまわうくわ

どやどらうとぞうひなりとばいそじうが樂よ文  
とくのゆくゆくものゆすとよ入もありく。法氏よもいと  
とくあて我よとくぐりぬとせんづあびくわくとつひけ  
まく。法氏かくうたあげありんむくろひく。うきれとひ  
くれど、さしわくくわーをあげど、うきれとひく。うき  
くべとがひくりて、くのたちとくうひくりとひく  
らぬとがよくり。そのくらうのうめうめうめうめう  
廢氏張氏のじよも。家家が妻をむとくとくとくとく  
ふあくとくとく男根とくとくとくとくとくとくとく  
お員とくとくとく元といふとくとくとくとくとくとく



こよまことひよみづきむさわ

体脩<sup>トモ</sup>があの周氏<sup>トモ</sup>へゆくとうりよひとあづかふとく  
うてえのとくとあゆめやうのあとへり。おととむく  
うちそのう。体脩<sup>トモ</sup>はうりよ周氏<sup>トモ</sup>とまつりゆく。  
しりやがふうとあくほん日<sup>トモ</sup>にうびの食<sup>トモ</sup>をひぢ  
らぐとすみくらう。そのまくとおりてのち。徐氏<sup>トモ</sup>のじもとと  
妻<sup>トモ</sup>すくらがうりよ周氏<sup>トモ</sup>よがーけれど。周氏<sup>トモ</sup>がうつよ  
けたぐふう。徐氏<sup>トモ</sup>ものとくとて室老<sup>トモ</sup>とあづくよ  
だてとよだりとろ。世のとくとよあひくわや。うひくわ  
のうきわけよ盜賊<sup>トモ</sup>あり。徐氏<sup>トモ</sup>がよどみの室老<sup>トモ</sup>  
とくゑけるが。うづくはよすとくとて。賊<sup>トモ</sup>とあひよくわふ  
くひくとくれようり。母<sup>トモ</sup>妻<sup>トモ</sup>とくとくとくげて。あのい  
よからくれうり。ひきとくとくとくうりで。すがくくぬれゆ  
ゑとくづなと。又盜賊<sup>トモ</sup>あり。徐氏<sup>トモ</sup>ひよくとくとく  
うりて。あづがとくふとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
よくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
よくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



いわゆるやのうりも、り  
ちうくは、山中ま、窟をかくに田村の西之郷と、宇治の妻

比賣監紀行卷中五

